

巻頭言

岡崎 和一*

このたび、5年ぶりに「慢性膵炎診療ガイドライン 2015」¹⁾(日本消化器病学会・日本膵臓学会)が改訂され、第3版が刊行されることになった。初版ガイドラインは2001年に日本膵臓学会の作成した「慢性膵炎臨床診断基準」に基づいて「慢性膵炎診療ガイドライン 2009」として作成・公表された。しかしながら、初版ガイドラインの発行された2009年に、それまでの慢性膵炎診断基準に新たに早期慢性膵炎の概念と診断基準が追加された「慢性膵炎臨床診断基準 2009」が公表されたことにより、2009年のガイドラインには早期慢性膵炎の概念は盛り込めなかった。

2015年のガイドライン改訂では、「慢性膵炎臨床診断基準 2009」に基づいて慢性膵炎の早期病変およびその診断にも言及するとともに、2009年以降にわが国でも使用可能となった高力価リパーゼ製剤やESWLの保険適応、新規糖尿病薬、2013年のアトランタ分類改訂による膵仮性嚢胞/WON(walled-off necrosis)の概念・定義と治療法などが盛り込まれた。

早期慢性膵炎は日本膵臓学会第8代理事長 下瀬川徹先生(現 名誉理事長)が世界に先駆けて提唱されたものであるが、新規疾患概念として国際的にもコンセンサスが得られつつある²⁾。この間、日本膵臓学会・厚労省難治性膵疾患調査研究班(下瀬川徹班長)による日本国内における早期慢性膵炎を含む慢性膵炎の実態調査ならびに予後に関する前向き研究などを経て、2019年に日本膵臓学会から「慢性膵炎診断基準 2019」³⁾が作成・公表された。新診断基準では原因としてのアルコール飲酒歴が1日60g以上(純エタノール換算)に修正されるとともに、非アルコール性では初めて膵炎関連遺伝子異常が盛り込まれた。また、MRI機器の向上に伴い、一定の条件を満たすMRCP所見がERCP所見と並ぶ診断項目に位置づけられた。早期慢性膵炎診断に重要とされるEUS所見が、1)点状または索状高エコー(Hyperechoic foci [non-shadowing] or Strands)、2)分葉エコー(Lobularity)、3)主膵管境界高エコー(Hyperechoic MPD margin)、4)分枝膵管拡張(Dilated side branches)の四つに整理された。

Kazuichi Okazaki

*関西医科大学内科学第三講座(〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1)

本特集では以上を背景に，慢性膵炎のガイドライン改訂に向けて，早期慢性膵炎を含む慢性膵炎の疫学・病態(成因・分子機序・病理)・診断・合併症・治療について，エキスパートの先生方が最新の知見を執筆されている。

文 献

- 1) 日本消化器病学会・日本膵臓学会：慢性膵炎診療ガイドライン 2015(改訂第2版)．南江堂，東京，2015
- 2) Whitcomb, D. C., Shimosegawa, T., Chari, S. T., et al.: International consensus statements on early chronic pancreatitis. Recommendations from the working group for the international consensus guidelines for chronic pancreatitis in collaboration with The International Association of Pancreatology, American Pancreatic Association, Japan Pancreas Society, PancreasFest Working Group and European Pancreatic Club. *Pancreatology* 18 ; 516-527, 2018
- 3) 日本膵臓学会：慢性膵炎臨床診断基準 2019. *膵臓* 34 ; 279-281, 2019